

革新懇の三つの共同目標

- ①経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
- ②憲法を生かし、自由と人権、民主主義が発展する日本をめざします。
- ③日米安保条約をなくし、非同盟・中立の平和な日本をめざします。

鳥取県革新懇ニュース

No.84

2023年

7・8月合併号

〒680-0833 鳥取市末広温泉町211誠ビル3階(鳥取県労連気付)
TEL0857-21-3171 FAX0857-21-3172

「新しい戦前」にさせないために

清水章宏 (しみずあきひろ) さん



1961年12月生
広島県労働者学習協議会講師団
現在、再任用国家公務員 鳥取市在住

沖縄で知った戦場の実相

ずっと太平洋戦争末期の沖縄戦にこだわり、沖縄の戦跡を約20年巡ってきた。沖縄戦は、外の逃れることのできない島の中で、多くの民間人、地域住民がいる中で日米両軍が激しい戦いをしました。日本軍と沖縄県行政は住民や学生を軍隊に動員し、住民に軍協力を強制しました。また、日本軍首脳にとって沖縄での戦いは本土決戦の時間稼ぎであり、最初から沖縄の住民と守備日本兵は「捨て石」としてあつかわれました。「軍・官・民の共存・共死」を強制された戦場で

す。

住民を巻き込んだ戦場の実相を知りたくて、100回以上沖縄に通い、潜ったガマ(洞窟)や地下陣地壕の数は200以上になりました。住民や兵士たちが逃げ隠れ、絶望的な状況に置かれた場。その様子を想像させる、散乱した遺品や骨片をいくつも見てきました。そして、ガマや地下壕の写真と見取り図などの記録を残してきました。

数年前から、遺骨収集ボランティア活動をされている方と地下壕の中で知り合っている。遺骨収集のお手伝いもするようになりました。遺骨収集の手伝いをする中、

今まで見てきた地下壕の遺品や遺骨を、ご遺族に届けたいことが出来ることを知りました。

昨年、遺骨収集を手伝った地下壕から見つけた判子(判子)の持ち主が判明し、ご遺族にお返しすることができました。また、以前収集させていた遺品を再度チェックした結果、万年筆が鳥取県智頭町の方、水筒が京都市の方のものだったこともわかり、それぞれご遺族への返還の場にも立ち会うことが出来ました。

広島で知ってほしい加害の歴史

仕事での勤務地は広島が長く、以前から興味があった原爆被害や核兵器についても調べることが出来ました。広島市内の原爆遺跡、慰霊碑のガイドや、県内の戦争遺跡や自衛隊についてのガイドもやってきました。ガイドしながら、広島が反核平和の地・ヒロシマとしての面でも知らえられ、もう一つの面があまり語られていないことが気になりました。

広島のもう一つの面。日本の侵略戦争の拠点であった「軍都広島」、加害の地としての広島を、しっかりと学ぶ必要があるのではないかと。戦争とともに歩み発展してきた軍都広島の歴史と、近代史のなかの広島

の役割。そして、その帰結としてもたらされたヒロシマの悲劇を学び、語り継ぐことが必要だと考えました。

2008年に広島県労働者学習協議会が主催した連続講座「加害の広島と日本の戦争」で軍都広島の歴史を担当して講演し、それをまとめたブックレット『軍都広島 「広島」と「ヒロシマ」を考える』(一粒の麦社)を発行しました。最近、軍事遺跡であり原爆遺跡でもある広島陸軍被服支廠の建物保存運動などで、軍都としての広島への関心も高まっています。原爆投下以前の広島を学ぶ入門編として、より深く学んでほしいと考えています。

「新しい戦前」の感触

ここ数年は戦場や戦争の実相だけではなく、知らず知らずのうちに戦争をする国家を支えるように仕向けられた世論誘導について、資料を集めて調べています。

昨年末にタレントのタモリさんの言った「(2023年は)新しい戦前になるんじゃないか」との言葉のとおりに、なんと今この日本がかつての1930年代の日本に似てきているように感じています。

戦争や平和の問題という、軍隊や軍事力の話になるのですが、それ以前に軍隊を支持し、戦争に協力する国民があつてこそ政府は戦争という選択ができるようになると思います。戦争が始まる前からでは遅い。戦争ができるように大衆・世論を変え、戦争ができる社会体制を整えるという動きをいちはやく読み取り、それを許さないことが一番重要なことだと考えています。

戦前・戦中の空気を感ずる

戦争展や平和のイベントなどで展示され、訴えているのは「戦争の悲惨さ」「戦争下での抑圧された日常生活」が中心になります。それは、1931年の満州事変にはじまり、1945年の降伏文書調印までの戦争状態が続いた時代の最後の数年にすぎません。

太平洋戦争中期まで、大衆・世論の多くは日本の戦争を肯定し支持していました。大衆・世論をそう先導、誘導していったものが何だったのか。それを明らかにして、今現在の世論と照らし合わせる必要があるのではないのでしょうか。

こここのところ、15年戦争中の日用品やおもちゃ、雑誌、チラシなどさまざまなものを集めてきました。その当時の、大衆を戦争に駆り立てて行った「空気」を感じられるものを。今、現在からみると滑稽で、笑えるものがたくさんあります。

自主申告運動の萎縮を狙う税務相談停止命令制度

鳥取県民主商工会連合会 事務局長 滝根 崇

しかし、それがその当時のマスコミと大衆のつくった「空気」であり、最終的にはその「空気」に自らの首を絞められていく結果となっていたのです。太平洋戦争中の首を絞められるような苦しい時代だけでなく、首を絞める「空気」をつくってしまった満州事変や日中戦争の時代を今一度掘り下げないと、今現在の「新しい戦前」に向かっている「空気」が見えないのでは

いでしようか。

戦争の記憶を伝えたい

平和に向けての活動は、沖縄や広島などで死者の声を聴き、死者と連帯する。そして、死者の声や戦争の実相、戦争の記憶を多くの人に伝えていくことだと考えています。戦争体験者や被爆者の方は高齢化し、直接体験談や証言を聴く機会は少なくなってきました。そのようななかで、戦跡や

遺骨収集の現場、戦争中のプロパガンダの道具などを通して「戦争の記憶」を継承することが重要です。沖縄戦跡や遺骨収集のパネル写真や、遺骨収集で回収した遺留品などを中心に、展示して直接触ってもらう機会をつくっています。直接触って感じてもらうことで、少しでも戦争の実相や恐怖を記憶してもらいたいからです。そういう場をどんどんつくり、より多くの人に



戦争の記憶を伝えていきたいと思います。

3月28日に可決された税務相談停止命令制度。その内容は、「税理士でない者が税務相談を行った場合、その税務相談を停止させる権限を財務相に与え、停止命令の内容が3年間インターネットで公開され、命令を守らなかつた場合は1年以下の懲役もしくは100万円以下の罰金というものが科される」というものである。

も、税理士法において「税理士資格のない者が税理士業務(税務代理、税務書類の作成、税務相談)を行ってはならない」という規制があり、度々、弾圧に利用されてきました。太平洋戦争後、租税分野の民主化として「申告納税制度」が導入されました。しかし、税理士法の民主化については、財務大臣に監督権限が与えられ、「税務行政の補助人」という位置付けが残りました。諸外国では「税務相談」は誰でも行えますが、日本では財務大臣の管理下にある税理士しかすることができない異常な事態となっています。

通じて申告納税制度を擁護・発展させる「自主申告運動」に取り組み団体がいくつ也存在します。政府が大軍拡と増税、社会保障の切り捨てを持ち出したこの時期に合わせ、税務相談停止命令制度を創設しようとするところから、停止命令制度がこれらの団体に対する弾圧規定として持ち出されたことは明らかです。

「納税者同士で一般的な知識を学び合うような取り組みを対象とするものではない」「目的は、不正に国税を免れさせること等による納税義務の適正な実現に重大な影響を及ぼすことを防止すること。脱税指南等によって不特定多数の者が脱税を行う等の行為を防止すること」



食料無料市スタッフのみなさん

「特定の団体を対象とした」ということが弾圧を跳ね返す大きな力となるでしょう。

税理士法上の納税相談とは「税額(課税標準)を決める行為」を指します。「自らの税額は自らが決める」ことを基本とする自主申告運動が、税理士法の業務独占規定や税務相談停止命令制度の対象となり得ないことは明白です。自主申告運動を正しく発展させていくことが弾圧を跳ね返す大きな力となるでしょう。

米子で「食料無料市」

新型コロナ感染症拡大の中で、鳥取県西部地区の学生を対象に、民主青年同盟鳥取県委員会と米子医療生協が「フードプロジェクト米子」を立ち上げ、これまで4回実施しています。

この日は年末で気温も低く、嵐模様とあって、来たいけど行けない方もあっただろうという思いもあり、また民医連・医療生協らしく困難な方々に寄り添う活動を継続するために年間通じて計画的に実施しようと決めました。



暮らしの様子などを伺いました

と格差がますます拡大する中で、この度は、ケアマネジャー、デイサービス責任者、生活と健康を守る会などのスタッフで受付でしっかり対応して生活の様子を伺い支援できることを一緒に考えるようにしました。当日は、医師も含めた米子医療生協のスタッフを中心に、理事や組合員、鳥取民医連からの頼もしい応援も得て何とか終了しました。はじめて参加の職員・組合員も多くありましたが、社保・平和委員会の理事・職員が中心になって、物資集め・カンパのお願いをがんばりました。貴重なお米や食品などを提供してくださった多くのみなさんのご厚意に感謝します。これからもよろしくお願ひします。米子医療生協 福嶋晴彦